

令和 2 年 11 月 14 日現在

機関番号：18001

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2018

課題番号：17K13991

研究課題名(和文) 知識欲と学習意欲の断絶からの脱却契機に関する事例調査研究

研究課題名(英文) The Cybernetics of "Image of Reality" Affirming the Schooled Society.

研究代表者

小嶋 季輝 (KOJIMA, Toshiki)

琉球大学・教育学部・准教授

研究者番号：30749247

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円

研究成果の概要(和文)：Q&Aサイトで、知識欲に基づき「答え」を求めるが、「学習」を回避し、自己のリソースを割かず、一方的に他者の学習成果を利用・搾取しようとする「教えて君」に関する2つの事例を扱い、各事例における「現実」及び「現実-像」の実態、そして、「現実-像」が「現実」を規定し、それを通して学習者を規定する様子、加えて、取り結ばれるコミュニケーションが「現実」に影響を及ぼし、それを通して「現実-像」及び「現実-像」による「現実」への規定に影響を及ぼす様子を観察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学習者が当面している「現実」とそれを規定している「現実-像」という階層的自律システムを想定することで、「現実」(=個別的教育問題の次元/階層)と「現実-像」(=教育問題を規定する社会的・制度的・文化的問題の次元/階層)とを別々に論題化していた従来研究に対して、本稿は、「現実」と「現実-像」を同時に理解し、同時に変える努力の必要性の指摘を行うとともに前者の理解を実現する俎上を準備した。

研究成果の概要(英文)：Researching, at the Q&A site, two cases of users who asked for "Answer" based on the desire for knowledge, but with avoiding "Learning" and trying to exploit other's learning results.

I observed the real state of "Reality" and "Image of Reality" in the cases, and how "Image of Reality" defines "Reality" and defines the learner through it. In addition, I observed that communications affects "Reality" and influences defining "Image of Reality" and "Reality" with "Image of Reality".

研究分野：学習臨床

キーワード：学習サイバネティクス 「現実-像」 「問と答の間」 知識欲 学習意欲

様式 C - 19, F - 19 - 1, Z - 19, CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

国内の教育においては、かねてより、知識欲 (=「知りたい」) と学習意欲 (=「学びたい」) の断絶が問題とされてきた。この問題は、早くは、大田 (1984) によって「問と答の間」の喪失として、1960年代より主題化され取り組まれてきた。現在においても依然、国際調査にて「勉強への動機付け」と「主体的に学習に取り組む意欲・態度」双方に課題があり、かつ、前者に比して後者にさらに課題があるとされている (OECD, 2013; 2016)。

そして、この問題は、学校文化の影響範囲拡大とそれを支持する社会的背景の存在に根ざしており、学校にのみその原因と解決を求めることは出来ない (駒林, 1992)。そこでは、「学校文化への自発的服従」という形で、学習を行う志向を阻むような、「教えてもらう」ことを「ただ待つ人」という学習者の自己規定のメカニズムが働いている (中井, 2004)。

(a) 答えのある問題を用い、正答とその答え合わせを重視し、(b) 答えにたどり着けなくとも、あるいは、学習を行わなくとも、答えを参照可能な「答え合わせ」に慣れ親しむことで、(c) 学校教育を経験した学習者に「答えだけを知りたい」ということが可能であり許されるという前提が共有され、(d) その結果、慣れの拡充と作法の一元化が生じ、学校の内外を問わず学校文化に服従することとなる。

(小嶋, 2017: 53)

というメカニズムが想定されている。そして、「慣れの拡充と作法の一元化」という応答は、学習主体の「問い」認識において他者との関係性の中に埋め込まれ、個人に対する超越的規範が存在することで、その規範を具体的な他者の背後に看取り成立する (i.e.: 超越的審級: 大澤, 1999) と目されている (中井, *ibid.*)。

他方で、この問題に対してはこれまでに、学校教育の開始と終了で生じる学習作法の転換点 (i.e.: 家庭での学び方 学校での学び方 社会での学び方) における学習者の不適応を回避し、円滑に接続する処方箋の検討がなされている (小嶋, 2014)。しかしながら、学習意欲と断絶された知識欲を認める上記の社会病理の影響下においては、「学校での学び」を経験して以降は、学習は忌避の対象となる。そのため、「学校文化への自発的服従」の放棄あるいは回避を促し、知識欲を学習意欲へと結びつけ、学習を行う志向の回復を論点とすることが求められる。

先行研究 (小嶋, 2017) では、Peirce の記号過程論 (米盛, 1981)、Hoffmeyer (2005) の生命記号論、そして、西垣 (2004) の階層的自律システム論による「知識欲と学習意欲の断絶のサイバネティクスモデル」が提出されている。

### 2. 研究の目的

本研究では、上記の背景を踏まえ、知識欲と学習意欲の断絶の典型例として、「教えて君 (=インターネット上の掲示板や Q&A サイト等で、知識欲に基づき「答え」を求めるが、「学習」を回避し、自己のリソースを割かず、一方的に他者の学習成果を利用・搾取しようとする者)」を扱い、その生態を分析する。これにより、「メタ社会システム=社会システムとしての心的システムを拘束・制約する場における心的システムの実態把握」を行い、知識欲と学習意欲の断絶が維持される要因、並びに、知識欲と学習意欲が一致する契機についての知見を得る。

### 3. 研究の方法

「知識欲と学習意欲の断絶のサイバネティクスモデル」に基づけば、以下の実証的課題が導かれる。

ヒト・システムと (ヒト) 社会・システムを想定すれば、両者はそれぞれ独立し自律していることとなる。他方で、「前者が後者に属す」ということを想定するため、両者に階層性を導入すれば、後者から捉えた前者は非自律的 (i.e.: 後者が前者を拘束・制約している様) に「見える」こととなる。

これを更に複合的に援用していくと、この (一方的な) 拘束・制約の関係は、ヒトの属する社会の数だけ存在することとなり、また、ヒト・システムに対する社会・システムの関係と同様の関係が社会・システムに対しても存在することとなる (i.e.: メタ社会・システム)。

各システムは、それぞれの「現実」 (=自らにとっての「世界の有り様」) を生きているが、その各「現実」は、複数の重なりあう拘束・制約関係を通じて、複数存在するように現れる。さらには、それらの「現実」は、より上位、究極的には最上位のメタ社会システムから順次、整合性が要求され、「つじつま合わせ」を受けることとなる。

この「つじつま合わせ」を行う疑似統合的イメージが、「現実-像」と呼ばれる。「問と答の間」の喪失は、結果としては1つの「現実」でありながら、その「現実」を生み出す「現実-像」としても位置付けられる。複数の「現実」につじつまを合わせる形で、「喪失」という生き方 (=1つの「現実」) を引き受けさせるものとして、機能している。

すなわち、「問と答の間」の喪失について、ヒト・システム (=心的システム) を中心に考えると、社会システムが心的システムを一定の形に拘束・制約し、社会システムがメタ社会システムに整合的であることにより、「問と答の間」の喪失という「現実」を束ねる「問と答の間」の喪失という「現実-像」が並存している事態が明証される。

これは、大田 (ibid.) 以来の指摘において、具体的に看取されてきたもの、ただし、「現実」(e.g.: 個別的教育問題) と「現実-像」(e.g.: 社会的・制度的・文化的問題) とが別々に論題とされる形でそれぞれ看取されてきたものである。対して、「現実-像」の性質を踏まえるならば、「問と答の間」の喪失という問題の解決は、心的システムに対する社会システムとメタ社会システムとを同時に理解すること、及び、それを通じた「現実」と「現実-像」を同時に変える努力が必要であったということが新たに看取出来る。

このモデルを調査枠組みとして、「メタ社会システム=社会システムとして心的システムを拘束・制約する場における心的システムの実態把握」を以下の「ウェブアーカイビング調査」により行う。

本研究では、その調査において「Yahoo! 知恵袋」にて「教えて君」の実態把握を行う。

上の課題を達成するためには、データ収集において、そのサービスの全ユーザの中から「教えて君」と見なされるユーザを特定し、そのユーザがどのような質問をし、どのような回答に出会い、その後の行動を変化させるかをモニタリングすることが必要となる。そして、「その後の行動」には、投稿を削除・改変することやアカウント自体の改廃といったものも含まれる。

この方法論上の必要性を満たすため、データ収集方法として、クローリングとスクレイピングによるウェブアーカイビング (=インターネットの自動巡回プログラムによるデータサンプリング) を採用した。具体的には、このプログラムは一日一回、次の作業 及び作業 を継続して実行した。

#### 作業

- ・「Yahoo!知恵袋」(URI= <http://chiebukuro.yahoo.co.jp/>) にアクセス
- ・「回答受付中の Q&A をもっと見る」のリンクを辿る
- ・「並び替え」を「質問日時」降順 ( ) , 「絞り込み」を「すべて」に設定し、最新のもの (=上) から順に質問を確認していく
- ・各質問における以下の情報のセットを保存する
- 「発見日時」: 発見の日時 (=クローリングした日時「YYYY 年 MM 月 DD 日 HH 時 MM 分」)
- 「ユーザ ID」: 質問者の名前 (「さん」を除く)
- 「ユーザページ URI」: 質問ページで「ユーザ ID」を辿ってアクセスできる「～さんの My 知恵袋」の ページの URI
- ・上記を 1 回あたり 20 標本抽出
- ・これを「名簿」と名付けるファイルに追加していく (重複がなければ、毎日 20 標本ずつ「名簿」内の「ユーザ ID」が増える)

#### 作業 -1

- ・「名簿」に記されている各「ユーザ ID」ごとにファイルを作成する (ここでは、この各ファイルを「個人票」と呼ぶ)
- ・「個人票」内には、「ユーザ ID」/「ユーザページ URI」を転記する (上は、まだ「個人票」を作っていない「名簿」内「ユーザ ID」に対する準備対応)

#### 作業 -2

- ・「個人票」に記載されている各「ユーザページ URI」にアクセス
- ・「質問一覧」のリンクを辿る
- ・項目を「質問日時」の古い順 ( ) に並べ替え、順に全て確認していく
- ・確認された「質問」/「回答」/「補足」/「返信」をその発見日時 (=クローリングした日時) を付して保存する
- ・その際、「個人票」ファイル内に含まれていない「質問」/「回答」/「補足」/「返信」を見つけたら、それをファイルに追加する
- ・また、以前のクローリングと変更がない部分はそのままに、変更がある部分には変更部分 (=差分) がわかる形で並記し、その変更を発見した日時を付す
- ・ユーザアカウントが削除されていた場合、「個人票」にそれが分かる情報を記すとともその事実を発見した日時を付す (ファイルやファイル内のデータは消さない)

## 4. 研究成果

「ウェブアーカイビング調査」において 2 つの事例を扱うことにより、「モデル」として理論的に示されているその様が、実態把握として、「教えて君」の観察から確認された。

「現実」の維持の実態として、(例え不適切行為と見なされる行為を重ねていたとしても) それ以外のユーザ同様に、「教えて君」の「現実」もまた守られる。「現実」はそれだけの堅牢さを持っていた。ただし、維持の仕方 (=守られ方) は、各心的システムあるいは各「現実」において異なるものであった。

さらに、把握された実態は、共約困難なほど多様な実態の様相を呈していた。心的システムの階層的自律の様相、すなわち、心的システムに対する社会システム及びメタ社会システムがその拘束・制約を機能的にいかにも実現しているかが、「拘束・制約」のその姿を看取させるものもそうでないものも見られた (ただし、理論的には必ず何らかの形で拘束・制約されている)。これがさらに事態を複雑化させていた、

そして、拘束・制約の結果、「現実」の維持・非維持をも生じさせている。そのもとにある「現実」が「間」の喪失であるなら、維持は「間」の喪失であり、非維持は「間」の尊重である。本研究の調査対象ではないが、元が逆であったなら、(恐らく堅牢さは異なるが) 維持・非維持と喪失・尊重の対応関係は入れ替えても同様に生じるであろう。

なお、部分的にはあるが、非維持という「現実」-「現実-像」も観察された。これは、本研究では踏み込まなかった「「現実-像」/「現実」の実態把握」の実現と、そして、「「現実」と「現実-像」を同時に変える努力」を導くことへの発展とにそれぞれ大きく寄与するものである。

しかしながら、本稿の成果は、Q&A サイト内での「現実」しか反映出来ていない可能性も残している。Q&A サイトという匿名の場だからこそ「教えて君」様の行為を重ねていると言いつると同様に、「現実」-「現実-像」の変化もその場だからこそ、あるいは、その場だけの変化であるかもしれない。

より広い社会システム及びメタ社会システムでの通用を論じるには、本稿の成果は未だ限定的である。

#### <引用文献>

- Hoffmeyer, J. (2005). 松野孝一郎, 高原美規 (訳). 『生命記号論: 宇宙の意味と表象』 青土社.
- 小嶋季輝 (2014). 「日常知と学校知の連続性に関する一考察」 『臨床教育学研究』 vol.2, pp.75-89.
- 小嶋季輝 (2017). 「「現実-像」としての「問と答の間」の喪失」 『琉球大学教育学部紀要』 no.90, pp.53-61.
- 駒林邦男 (1992). 「「学校知」の学び(「学校的認知」と日常的認知」 『岩手大学教育学部附属教育実践研究指導センター研究紀要』 vol.2, pp.19-41.
- 中井孝章 (1999). 「人間形成からみた授業型コミュニケーションの機能と価値: 「第三者の審級」の承認と形成」 『学校教育研究』 14: 118-133.
- 中井孝章 (2004). 『「学校知」変革の戦略』 日本教育研究センター.
- 西垣通 (2004). 『基礎情報学: 生命から社会へ』 NTT 出版.
- OECD (2013). Country Note: Japan: Results from PISA 2012.
- OECD (2016). Country Note: Japan: Results from PISA 2015.
- 大田堯 (1984). 『学力とはなにか』 国土社.
- 米盛裕二 (1981). 『パースの記号学』 勁草書房.

#### 5. 主な発表論文等

##### 〔雑誌論文〕(計 1件)

小嶋季輝, 知識欲と学習意欲の断絶に関する実態調査: Q&A サイトにおける「教えて君」の質問行為を事例として, 日本学習社会学会年報 (16) 71-80, 2020

##### 〔学会発表〕(計 1件)

小嶋季輝, 知識欲と学習意欲の断絶に関する実態調査: Q&A サイトにおける「教えて君」の質問行為を事例として, 教育方法研究会, 2018

##### 〔図書〕(計 0件)

##### 〔産業財産権〕

出願状況 (計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:  
番号:  
出願年:  
国内外の別:

取得状況 (計 0件)

名称:  
発明者:  
権利者:  
種類:

番号：  
取得年：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

### (2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。